

選考結果総評

一般財団法人水・地域イノベーション財団では、3回目の助成事業の募集をいたしました。研究・活動助成の両部門への応募状況は次のようになっていました。研究助成は、専門コース、一般コースとも2件ずつ、活動助成は、本格コース3件、一般コース2件でした。

研究・専門コースでは、流域水循環の取組みに若者の積極的参画を促進する方策の研究、水道事業経営の改革に関する公共政策・公営企業の専門家による研究を採択しました。前者から、水分野における若者の意思決定参加、世代間連携につながるものが、後者では、公営企業の専門家と水道事業者による協働によって、経営改革の芽が生まれることが期待できます。研究・一般コースでは、従来から行われてきた研究会活動を時代にマッチした「社会変化と水インフラ」をテーマに継続しようという研究会を本財団として助成させていただくこととしました。

活動・本格コースでは、いずれも南アジアの国をフィールドとした活動を採択しました。ひとつはネパールにおいて地下水砒素汚染対策として普及している砒素除去フィルターの安全確認方法が提案されています。ふたつ目は、バングラデシュの都市貧困層コミュニティにおいて、水・衛生設備の自立的管理が求められている人々へのエンパワーメントをテーマとしています。活動・一般コースでは、沖縄県の高校生による活動で、飲料水源となっている地下水の農薬検査と農薬に依存しない農法の提案、長い活動実績をもつNPOによるこれまでの活動の集大成と今後の活動展望の検討を助成することといたしました。以上、7件の採択となりました。

過去2年間に助成を行った研究や活動には、「演劇活動」から高校における「水とつなぐ授業・水がつなぐ地域の活動」まで、当初の想像を超える幅広い概念で「水」をとらえた内容での応募がありました。こうした実績を踏まえつつ、これまでの水インフラに焦点を当てた活動から、もっと広く社会環境、経済文化等の観点から地域の水を捉えなおし、かつイノベーションを通じて社会課題を解決する場の提供も行っていきたいとの思いから、本年3月に財団の名称を「水・地域イノベーション財団」へと変更しました。改称を機に、これまでも増して「水×地域」をキーワードとする地域の研究・活動に対し助成を行ってまいります。関係各位におかれましては、次年度も引き続き積極的にご応募いただきますようお願い申し上げます。